

大槻如電 おおいけにょ 著述家。弘化二年八月十七日江戸生れ、昭和六年一月十一日歿（八四五一―九三）。講清修、字今卿、通稱修二郎、修次、分修、二修。別號正阿彌、如電居士、白念坊、白念道人、陽繁子、修如電、如電修等。仙臺藩儒大槻磐溪の次男、國語學者大槻文彦の兄。家學を父に受け、藩黨養賢堂に学ぶ。慶應二年藩の砲術指南。維新後海軍兵學寮官、漢學教官、次で文部省出仕と明治七年辭官。翌年家督を弟文彦に譲り、爾來在野の活動。二十二年白石社總代。

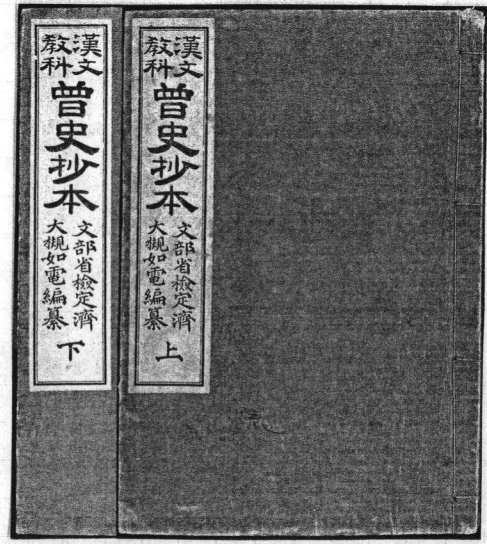
編著書、大槻磐溪著『奇文欣賞』全四冊（清修名、清懷同校、明治元年藤月序・紙竹菴樓）、『日本地名字引』（大槻修）一名、編、明治七年五月自版、森屋治兵衛發兌）、『日本地誌要略』全五冊（同、上

帙）二冊、下帙二冊・明治九年六月青山紅樹書樓藏版、佐々木總四郎他發兌）、文傳正興訓註『日本地誌要略字解』（同、訂正、明治十一年三月）二十日錦森堂）、大槻清二解『剛近古史談註釋』（同、校、明治十五年六月十六日里石齋藏版、山林新共衛發兌）、『東京別冊』二百年

祭記事』（同、編、明治二十二年五月）二十八月自刊）、『銀婚盛典』（原田真一合著、原田真一編、明治二十七年二月）二十七年内田正義刊、國書文庫）、『小學校摘要』論理教科用書』（編、訂正再版、明治二十九年十一月十七日大阪・三木佐

助刊、吉川半七發兌）、『新東世年表』（井上頼國共撰、明治二十一年二月）二十五日吉川半七刊、林平次郎刊）、『花衣

一名』二井吳版店案内』（合著、明



- 治二十一年一月一日比翁助編刊、可讀文『教科書史料抄本』全一冊（編、  
 茂雄校、四版・明治二十二年二月一日大阪・二天佐助刊、富山房書  
 活殺賣）、『漢學史談』全二冊（編、訂正再版一卷上、卷下・明治二  
 十二年七月二十八日內田老鶴圖）、『大槻磐水』（明治二十五年六月  
 二日博文館「少年讀本」）、第十『世守田勘瀨一附載新量產興行年鑑』  
 （白念坊如電名、明治二十九年十月二十二日守田善作守田好作刊）、『磐溪事  
 畧』（內題「磐溪先生事略」清修如電名、口授、清復文彦補言、茂雄  
 記、明治四十一年六月二十六日大槻茂雄刊）、『大槻文庫書目一磐溪  
 追遠展覽會』（明治四十一年六月二十六日自刊）、『御家騷動の研究』  
 （合著・國史博物館會編、大正十四年五月十日雄山閣）、新『舞樂圖說』  
 全一冊（昭和二年五月十五日六合館）等。